別紙様式第７号

学位論文審査の結果の要旨

報告番号	甲　第　　号		
所属	医学系専攻 保健学分野 老年保健学ユニット	氏名	佐藤　正彬
学位論文題目	Relationship of malnutrition during hospitalization with functional recovery and postdischarge destination in elderly stroke patients （入院中の急性期高齢脳卒中患者の低栄養状態と機能回復および退院先との関連性）		
論文審査担当者	主査　　上村　智子 副査　　佐賀里　昭，務臺　均，千島　亮		

（学位論文審査の結果の要旨）

入院中の栄養状態の低下は脳卒中患者のADL能力の改善や退院先に影響を及ぼすが，急性期病院入院中の高齢脳卒中患者については十分に調査されていない．今回，急性期高齢脳卒中患者について，入院中の栄養状態の低下に関連する要因を明らかにすると共に，入院中の栄養状態の低下とADLの改善や自宅退院の可否との関連性について検討を行った．

研究デザインは後方視的観察研究で，信州大学医学部附属病院に入院した65歳以上の脳卒中患者205例を対象とした．患者の基本属性，リハビリテーション評価，栄養状態評価指標（Geriatric Nutritional Risk Index: GNRI），転帰をそれぞれ電子診療録より調査した．入院中の栄養状態の低下に関連する要因を検討するために，基本属性，リハビリテーション評価，入院時のGNRIを説明変数として重回帰分析を実施した．また，入院中の栄養状態の低下とADL能力の改善との関連性を検討するために基本属性，リハビリテーション評価，入院中の栄養状態の変化量を説明変数として重回帰分析を実施した．さらに，入院中の栄養状態の低下と退院先との関連性を検討するために二項ロジスティック回帰分析を実施した．

その結果，佐藤正彬は次の結果を得た．

1. 重回帰分析の結果，急性期高齢脳卒中患者の入院中の栄養状態の低下に関連する要因として，高年齢，出血性病変，入院時の神経学的重症度が高い，入院時の栄養状態が高い，および入院時の食事動作の自立度が低いことが抽出された．
2. 先行研究で報告されている関連因子で調整を行った重回帰分析および二項ロジスティック回帰分析の結果，急性期高齢脳卒中患者の入院中の栄養状態の低下は，患者のADL能力の改善と退院先に関連する要因であった．

これらの結果より，急性期脳卒中患者において，高年齢，出血性病変，入院時の神経学的重症度が高い，入院時の栄養状態が高い，および入院時の食事動作の自立度が低いといった特徴を持つ患者は入院中に栄養状態が低下する傾向にあることが明らかとなった．また，入院中の栄養状態の低下とADLの改善や自宅退院関連することが明らかとなり，入院中に栄養状態が低下する要因を持つ患者に対してリハビリテーションを実施する際には，適切な負荷量や介入時間に留意しながら進めていくことの必要性が示唆された．

よって，主査，副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた．